

Title	後藤末雄先生を悼む
Sub Title	In memory of the late professor Sueo Goto
Author	佐藤, 朔(Sato, Saku)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1968
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.25, (1968. 3) ,p.457- 458
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	英語英文学・独語独文学特集
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00250001-0457">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00250001-0457</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 後藤末雄先生を悼む

佐藤 朔

後藤末雄先生は、半世紀に垂んとする長期間に亘って、慶応義塾大学において、フランス語、フランス文学を講ぜられたが、高齢の故を以て、昨春、職を辞し、その後、悠々自適の生活を送られていた。それから一年も経たない11月10日、突如として先生の急逝を知らされてわれわれは驚きを禁じ得なかったのであるが、他方最後まで学問の道にいそしみながらよくぞ天寿を全うされたという思いにも駈られた。

慶応義塾大学で先生の警咳に接し、その講筵に連った学生の数は数え切れぬほどと考えられるが、戦後フランス文学科に学んだ学生の殆どすべては先生の講義を聞いている筈なので、それだけでも五百名以上に達するであろう。先生は17・18世紀のフランス文学に精通され、古典劇、百科全書家の著作を講読する機会が多く、その教授法は頗る精密峻厳で、殊に学生の語学力を厳しく鍛錬することに意を用いられた。しかし、先生のご専門は、『東西の文化流通』などの著書を通じて知られるように、フランスの文学、思想と、中国、日本のそれらとの交流について、比較文学の方法を以て、深く研究なさることにあり、それによって学界に寄与されるところが少なくなかった。したがって、日本文学についても極めて造詣が深く、しばしば物語文学や和歌俳句について語られ、ご自身も長く句作に耽られ、青年の折には幾篇かの小説を物されたという文人氣質も多分に持っておられた。

思うに先生はフランス文学から合理的精神を、日本文学からは風雅の道

を学ばれ、先生の敬愛して止まなかったパスカルのいう「幾何学的精神と  
繊細な精神」を自家菜籠中のものとされた方であった。私のように先生か  
ら薫陶を受けた後輩は、非才のため、先生の学統を継ぐことが適わず、ま  
たその精神を十分に活かす術も知らないのであるが、現在、慶応義塾大学  
のフランス文学科出身者の中に、学問研究、劇作、演劇、詩歌の各方面  
に、多くの逸材を輩出していることは、直接、間接を問わず、先生の感化  
がいかに広く行きわたっているかを示す証拠であると思わざるを得ない。  
先生の学恩を深く感謝するとともに、心からご冥福を祈る次第である。

(43. 1. 20)



遺影（昭和42年初夏）